



水でつながる文化と地域



びわ湖の周りの地域には、水にまつわる文化や暮らしがたくさん受け継がれています。そのルーツを調べてみましょう。昔から変わらない人々の願いや、ずっと大切にされてきた暮らしの知恵が見えてくるはずです。

■びわ湖に浮かぶ大鳥居 (2-11 日本遺産)

「白鬚神社」は、びわ湖に浮かぶ大鳥居が有名な、近江最古といわれる神社のひとつです。延命長寿の神様が祀られており、参拝客も多い滋賀の絶景スポットです。

数え年2歳の子に名前を授け、その子が無事に成長することを祈る「なるこまいり」の神事は有名で、この神事が行われる9月5日・6日には、全国から参拝客が訪れます。



白鬚神社 (高島市)

■水中に眠る遺跡 (3-1 琵琶湖に眠る水中遺跡)

びわ湖の水辺や湖底では、約80件の遺跡が発見されており、こういった遺跡を「水中遺跡」といいます。遺跡からは土器や農具、丸木舟などが出土しているほか、貝塚や水への祈りとして物をさげた場所などが発見されており、びわ湖とともに歩んできた人々の、豊かな暮らしと文化を知ることができます。



針江浜遺跡調査風景

■水辺の暮らし針江のかばた (4-4 水と生活文化)

高島市の針江地区には、比良山地から流れる水が地中にもぐりこんで流れ、湧水として吹き出しています。この湧水は「しょうず (生水)」と呼ばれ、昔から大切に利用されてきました。地域の人々はこの生水を利用する水場を「かばた (川端)」と呼び、水路に流す水をよごさないという約束事を受け継ぎながら、水を飲んだり、洗い物などに使ったりしています。



かばた



環境問題をみんなの手で



びわ湖やその周りの環境を守るためには、いろんな人が協力し、話し合っていくことが大切です。いつまでも自然と仲良く暮らしていくために、まずは、個人で、家庭で、学校で、どのように行動すればよいのか考えてみましょう。

■みんなのBIWAKO会議

この会議は、MLGsの各ゴールの達成状況を確認しあい、今後に向けて学びあうために毎年開催しています。高校生や大学生、農家さん、漁師さん、県内のいろんな団体などが集まり、自由にびわ湖の環境について意見交換を行っています。MLGsやびわ湖の環境に関する活動・事業のヒントを探している方は、どなたでもぜひご参加ください。



みんなのBIWAKO会議の様子
(令和6年9月6日)

■世界との対話 (10-6 琵琶湖から世界へ)

▶滋賀県から始まった国際会議

「世界湖沼会議」は、滋賀県が発祥の世界に誇れる国際会議です。1984年に「第1回世界湖沼会議」を滋賀県で開催し、現在も、およそ2年毎に世界各地で開催されています。滋賀県からも行政関係者だけでなく、研究者や市民団体、高校生等、多くの方が参加し、びわ湖での取組を世界に向けて発信しています。なお、2024年12月の国連総会で、「第1回世界湖沼会議」の日である8月27日が、「世界湖沼の日」に定められました。



第19回世界湖沼会議
(分科会)の様子

▶水に関する世界最大級の国際会議

「世界水フォーラム」は、3年に一度、世界中の水関係者が集まり、水をめぐる問題を話し合う世界最大級の国際会議です。

2024年5月にインドネシア・バリで開催された第10回世界水フォーラムでは、「MLGs」をはじめとするびわ湖の取組を発信しました。



第10回世界水フォーラム